

- ◆ () (第1次) (自由党) (在任 1868~1874 年)
 - ・1870 年、小作人保護のためアイルランド土地法が成立した (1880 年にも)。
 - ・1870 年、() によって初等教育の整備がはじまった (後に義務教育)。
 - ・1871 年、() によって、労働組合が正式に認められた。
- ◆ () (第2次) (保守党) (在任 1874~1880 年)
 - ・最重要植民地である () の安全を確保するため、数々の政策を行った。
 - ・1875 年、ユダヤ財閥 () の融資で () した。
 - ・1877 年、ヴィクトリア女王を皇帝とする () を成立させた。
 - ・1878 年、ロシア=トルコ戦争に干渉し、() へ参加した。



4度にわたって首相を務め、GOM (Grand Old Man) と呼ばれて国民に人気があった。イギリス史を代表する首相である。

自由党のグラッドストーン



ディズレーリが、なぜユダヤ財閥から大金を借りることができたのか。それは彼のルーツに関係がある。

保守党のディズレーリ



開通当時のスエズ運河と現在のスエズ運河



1869 年にフランスの指導で開通。21 世紀の今日においても、世界で最も重要なシーレーン (海上交通路) である。

- ◆ () (第2~4次) (自由党) (在任 1880~1885、1886、1892~1894 年)
 - ・1884 年、() が行われ、農村や鉱山の労働者にも選挙権が与えられた。
 - ・アイルランド問題では、1886、1893 年の2回にわたり () が提出されたが、成立しなかった。
 - 1905 年には、アイルランドの独立を強硬に主張する () が結成され、独立運動が激化した。

3 19 世紀後半から 20 世紀初頭の大英帝国

- ・19 世紀末になると、ヨーロッパの大不況や、()・() の躍進により、イギリスは「世界の工場」ではなくなった。
- 莫大な富を各地に投資し、「 」となることで影響力を維持した。

- ・植民地相 () は、イギリス植民地会議 (後にイギリス帝国会議へ改称) をたびたび開いて、植民地との連携強化をはかった。
- 植民地不要論や財政負担の軽減のため、() となる植民地もあった。
- ※1867 年に ()、1901 年に ()、
- 1907 年に ()、1910 年に ()



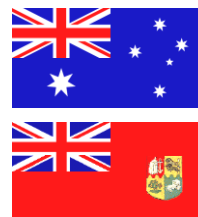
ロンドンのシティ

シティ(The City of London)は、ロンドンの中心部にあり、イングランド銀行が建てられている。現在も世界の金融の中心である。



ジョゼフ=チェンバレン

グラッドストンのアイルランド自治法案に反対して自由党を分裂させ、保守党内閣に植民地相として入閣した。息子のオースティンとネヴィルも有名な政治家。



どちらも大英帝国の旗が国旗に入っている。どこの国の旗かわかりますか？上の旗は、現在でも使っています。